

平成 27 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490600127	事業の開始年月日	平成 24年2月1 日	
		指定年月日	平成24年1月31日	
法人名	株式会社 シリセス			
事業所名	グループホーム星川園			
所在地	( 〒240-0064 ) 神奈川県横浜市保土ヶ谷区峰岡町1-13-1 サンワールドビル3F			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1 ユニット	
自己評価作成日	平成28年3月10日	評価結果 市町村受理日	平成28年6月21日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"><li>入居者の心身の状況、希望、家族の意向等を踏まえ、個別支援など柔軟に対応している。</li><li>入居者の心身機能の維持向上に努め、支援している。</li><li>レクや外出、買物など入居者が社会と孤独した存在とならない様、積極的に外部との交流を進め、ストレスをためず楽しみある生活を心掛けている。</li><li>地域交流、異世代交流に積極的に取り組んで、高齢になっても尊厳ある生活が出来る様、努めている。</li><li>家族へ月1回、職員が手紙を書き、ホームでの様子を伝えている。</li></ul>
---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成28年3月17日	評価機関 評価決定日	平成28年4月4日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<b>【事業所の優れている点】</b> ◇利用者の意向に添った介護計画の作成 介護計画は、利用者の意向を踏まえ1か月ごとに自宅を訪問して、家族と話し合った後、職員全員参加のスタッフ会議で職員の意見も反映して作成している。この間、利用者の状況に変化があった場合は直ちに対応している。 ◇地域の一員として住民との日常的な交流 自治会の夏祭りや餅つきには、職員と利用者も参加し、また、近隣住民が事業所を訪問して一緒にお茶を飲み、避難訓練へ参加するなど日常的に交流している。 毎月、児童施設家庭学園の生徒（小学生～高校生）が事業所を訪問して、歌をうたいバーベキュー等を一緒に楽しんでいる。また、ウクレレや車いすダンスのボランティアを受け入れて、利用者は地域の様々な方との体験を共有している。 <b>【事業所の工夫点】</b> ◇利用者の自立への支援 体操や廊下での歩行訓練、洗濯物の処理、居室の清掃、下膳や食器拭き、鉢植えの世話など、可能な範囲で利用者にしてもらっている。また、クイズや四文字熟語のゲームも行っており、身体と頭脳の両面から現状を維持して、利用者が自立した生活が営めるように支援している。
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム星川園
ユニット名	ー

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、共有している	・理念は廊下等に掲示し、議論の必要な場合は理念に立ち返って考えるようにしている。 ・利用者には役割を分担してもらい、歩行訓練や体操等で機能を維持するなど、「利用者の自立への支援」に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、行事等に参加する事により、地域社会の一員として認知される様に努めている	・自治会の夏祭りや餅つき、防災訓練に参加し、また、近隣住民が事業所を訪問するなど、日常的に交流している。 ・横浜家庭学園の生徒が、毎月来訪して交流している。中学生の職業体験も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や買い物など、積極的に地域に出て行く事で、理解して頂くよう発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた意見に謙虚に耳を傾け、幅広い意見を施設運営に生かす努力をしている。	・家族・後見人の他、自治会長や民生委員、区の高齢障害支援課の職員が出席して、3か月ごとに開催している。 ・看板の出し方、散歩には帽子を被るように等の意見を参加者から得て実践している。	・現在3か月ごとに行われている運営推進会議は、今後、2か月ごとに開催することが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村と連絡を密に取り、連携を取る事で運営上の向上を目指している。月1回、介護相談員の方々を受け入れている	・区の高齢障害支援課とは相談等日常的に連携し、介護保険課からは学生の研修依頼を受けて実施している。 ・介護相談員からの利用者に関する意見は、その都度ケアに活かしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体束縛をしないケアについてスタッフ全員が常に意識し、学び、正しく理解して取り組んでいる	・職員が受講した身体拘束に関する研修内容を会議で発表し、全職員の理解と共有につなげている。 ・身体拘束防止委員会で、身体拘束をしないケアについて学び、職員は半年に1回自己点検シートでチェックしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待防止法について正しく学び、防止の徹底に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が権利擁護に関する制度について正しく学び、その活用を支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は丁寧に行い、十分な理解と納得を図っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等からの意見、要望は直撃に受け止め、運営に反映させている	・家族の来訪時や電話で、意見や要望を聴いている。 ・利用者の外出時の費用に関する意見や、家族会を立ち上げて欲しい旨の要望があり、運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議などにおいて意見を述べる機会を設け、運営に提案を取り入れ反映させている	・月1回のスタッフ会議では全職員が話し合い、清掃回数や日常の業務内容、また、入居者や職員の募集方法などで、意見や提案を出し合って検討し実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況・能力に応じて職場環境等の整備に努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を積極的に活用し、職員の技能向上を図るよう努めている。年1回の交換研修を実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	年1回の交換研修等を通し、他事業所の長所等を取り入れる様努力している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は入居者の主訴を根気強く傾聴し、注意深く対応し不安なく過ごせる様、信頼関係の構築に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の要望を傾聴し不安等相談しやすい環境作りに努め、お互いの信頼関係を築く努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等の要望を傾聴し、他サービスも含め必要な支援を見極め、より良い生活の為の提案や助言を行っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が自宅で過ごす様にして頂く為、残存能力を見極め出来る事は積極的に行って頂き、共に過ごし支え合う信頼関係を築く努力をしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員は信頼関係をしっかり築く事に努め、共に利用者を支える立場として協力し合う様努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り入居者の要望を聞き入れ、継続的にこれまでの関係が途切れない最大限の努力を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前の職場の職員や友人、知人の訪問を受け入れ、知人への手紙や年賀状作成を手伝い、電話をかけるなど、関係が途切れないように支援している。</li> <li>・馴染みの美容院や、法事へ出席するための送迎もしている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク、散歩その他あらゆる生活の場面で、利用者同士の交流を意識し、支え合う関わりを支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の思いを傾聴し、言動や非言動的なものから、その思いを汲む努力を常に怠らず支援に繋げている	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に管理者やケアマネジャーが居室を訪問し、希望や意向を聞いて、他の職員とも共有している。</li> <li>把握が困難な利用者には、様子から思いを汲み取り、選択肢の中から選んでもらっている。</li> </ul>	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者のより良い生活の為に、かつての生活歴や生活環境等の情報収集を行い、生き活きと生活出来る様支援に繋げている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活のパターン、心身状態、有する能力の把握に努め小さな変化も見逃さないよう努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	様々な角度から状況を見極め、会議等でのスタッフそれぞれの意見を集約して介護計画に反映させる努力をしている	・本人の希望に加え家族の意向を来訪時や利用者宅で聞き、スタッフ会議で話し合っ、介護計画を作成している。 ・計画は通常3か月ごとに見直し、状況の変化がある場合は、直ちに改訂している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録から職員は情報を共有し、実践や介護計画の見直しに反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに応じた個別的支援を行う様努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、活用する様努めている。毎年、中学生の職業体験の受入や自立支援学校の総合授業の組み入れをしている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療、訪問看護、訪問歯科等、提携医療機関との連携を密にとり、適切な医療を受け入れられる様支援している	・利用者の健康は、月2回の内科医と3回の訪問歯科医による診療の他、週1回の訪問看護にて支援している。 ・かかりつけ医への受診には、管理者が対応し、結果を家族に報告している。	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は看護職員と連携を密に取り、情報を共有し入居者の医療面での支援を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関と緊密に連携を取り合い、早期退院に向け最大限支援を行っている。毎日のお見舞いを欠かさない		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針については本人、家族の意向を踏まえ十分納得出来る様話し合い、共有し支援している。延命措置要否の同意書を交わしている	・家族には事業所の対応可能な範囲を知らせ、延命措置要否の同意書をもっている。 ・重度化した場合、家族、医師と話し合って方針を決め、状況の変化に従い、対応方法を職員間で十分に話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場にAEDを設け、万一の急変や事故発生時に、全職員が対応出来る様、定期的に研修を行い備えている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については防災火災各訓練を行う事により地域との協力体制を築いている、年二回の訓練実施	・年2回、夜間想定での避難訓練を実施し、うち1回は近隣住民の協力を得、消防署員が来訪してAEDの研修もしている。 ・水、乾パン・羊羹等食料、オムツ、防寒シート等を備蓄リストで管理している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当施設理念の通り、尊厳を尊重した対応を全職員が心掛けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「個人情報保護方針」をリビングに掲示して、事業所の方針を明示している。</li> <li>・職員は利用者の尊厳を傷つけないように、大きな声を出さない、トイレ誘導はそっと耳元で行うなどの配慮をしている。</li> </ul>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が話しやすい環境を整え、表出しづらい利用者の思いを受け止める努力を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にした生活が出来る様、個々の状況や希望に最大限応えらるよう努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別的の要望に柔軟に応えられるよう支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の残存能力に配慮し、共に準備や片付けをしたり好みなどを反映し、リクエストにもお答えできる様心掛けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・献立は事業所で利用者の好みを反映して作成している。</li> <li>・炒め物やカレーライスの調理を手伝う利用者もいる。</li> <li>・食材の買い物は、近くのスーパーに利用者と一緒にでかけている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し、職員同士が情報共有して健康状態も含め支援に繋げ対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科でのチェックの他、日々の口腔体操と口腔ケアの支援によって、口腔ケアの重要性を認識し支援している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の記録や介助により個別のパターンを把握し、少しの変化を見極めて支援するなど排泄の自立を支援している。リハパンから布パンツへの支援を推進している	・トイレの自立者が半数を占め、他の利用者は排泄パターンを把握して、トイレに誘導している。 ・こまめにトイレに誘導して、リハビリパンツから布パンツに改善した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	玄米や野菜、水分摂取等を積極的にすすめると共に運動を行い、薬に頼らない様対応している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	身体の清潔保持と感染症を防ぐ等、入浴を勧め出来るだけ希望に沿って対応している。ゆず湯、菖蒲湯等季節に応じた入浴も実施している	・入浴は、週2~3回をベースに利用者の希望に応じている。 ・入浴を拒む利用者には、スタッフや時間を変えて、呼びかけている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の生活パターンや日々の状況を見極めて支援している。寝具についても清潔に保てる様、支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、主治医指導の下、事故の無い様細心の注意を払い確実に服薬出来る様努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	社会から隔絶される事無い様、楽しみ・レク・外出を積極的に支援し、ストレスを溜めないよう努めている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を最大限重視し、反映出来るよう努めている	・天気の良い日は、近くの公園への散歩やスーパーでおやつなどの買い物に出かけている。 ・利用者全員を対象に、誕生日のレストランでの外食、近くの神社への初詣、中華街の食事会などの行事を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意向、希望により支援している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に本人の意思で電話や手紙のやり取りが出来る様支援をしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い共有空間づくりに努め、季節の生花を飾るなど工夫している	・居間の温度は、利用者の様子を見てその都度調節し、換気は午前、午後に各1回行っている。 ・壁面には、ボランティアの学生と一緒に作った折り紙や絵などの作品を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間において、椅子席・ソファ席など自由に利用でき、居場所の工夫をしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等、自由にレイアウトし本人が居心地良く過ごせる空間作りを支援している	・週1回居室整理日を設けて、衣替えや居室を整理している。 また、掃除は毎日行いシーツは1週間ごとに交換している。 ・居室には生け花や家族の写真などを飾って、利用者が心地良く過ごす場となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別の能力・状況に応じた支援や、手すりの設置や安全に配慮した動線の確保など自立に向けた工夫を行っている		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム星川園

作成日 平成 28年 4月 20日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	現在3か月ごとに行われている運営推進会議は、今後、2か月ごとの開催を望む。	3か月ごとに行われている会議を、2か月ごととする。	参加者の方に説明して、2か月ごとの開催に、理解と協力を得る。	3か月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。